

平成 27 年 12 月 31 日 (通巻第 128 号)

# ボウルズ・ジャパン ブリテン

発行元：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本 総務部

役員からの年頭のご挨拶

会長 山田 誠

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては 2016 年を迎え、新たなボウリングシーズンの始まりを心待ちにしておられることと思います。

昨年は世界で様々なことが起こりました。特にパリで発生した不幸な出来事は心を痛めました。1990 年代を助走路にして 21 世紀は希望に満ちた世紀になることを願いましたが、現実はいよいよ悪化の道を辿っているのではないかと懸念されています。幸いにして今のところ日本は平和を享受しているように見えますが、決して世界の動きと無関係ではありません。

ところで、ボウルズをはじめ様々なスポーツを楽しむことができるのは、社会が平和でなければなりません。その意味では、好きな時にボウルズを楽しめる現在の私たちボウラーは、とても幸せなのではないでしょうか。

スポーツの大きな意義のひとつとして、コミュニケーションツールとしての機能があるということが挙げられます。コミュニケーションができると自然と互いの理解が深まります。競技をすると、どうしても勝ち負けが目につきますが、実は競い合いながらも互いにコミュニケーションをとっているのです。ただしコミュニケーションを可能にするには少々心得が要ります。相手を納得させるプレイをすることや、不快にしない態度をとることなどです。つまりプレイヤーのトータルな質が問われます。その条件が満たされると、互いを認め合いながらよりよいコミュニケーションができるというわけです。

数ある各種スポーツの中でも、特にボウルズの世界は社交を重んじています。世界の真のボウラーは、試合がどんなにエキサイトしても、試合が終わると互いに称え合う心得があり交流を深めています。世界チャンピオンをめざすレベルの人も、エンジョイファーストの人も社交の心得に差はありません。

安寧な社会を求める一方で、小さいながらも私たちの活動が、社交を重んじ平和の一翼を担うようになりたいものです。

2015 年のハイライトは何といても、11 月下旬から 12 月上旬にかけてニュージーランドで行われたアジア太平洋大会において、日本代表チームがトリプルス競技（佐藤さん、江村さん、長谷部さん）で銀メダルを獲得したことです。決勝トーナメントにおいて、最後には地元ニュージーランドに敗れましたが、世界の強豪であるマレーシア、オーストラリアを撃破したことは、ラグビー日本代表がワールドカップにおいて南アフリカを破ったことに匹敵する快挙でした。長谷部さんはシング

ルスでも堂々の銅メダルを獲得、最近の実績にたがわない成績を残されました。これらは、私たちが国際大会に出場しはじめた 1990 年代には、とうてい考えも及ばない夢のようなできごとです。選手は全て在豪の方々でしたが、BJ 会員として最高のパフォーマンスを成し遂げられたことに敬意を表すると同時に、賞賛したいと思います。

皆様のボウリングが一層飛躍し、充実したものになりますようお祈りいたします。

**Good Bowling !**

### 理事長 森 紘一

新年明けましておめでとうございます。

昨年 4 月に前山田理事長の後を継いで新しく理事長職を拝命し、まずは何とかここまでやってこれた事は、ひとえに B J 会員の皆様のご支援、ご協力のお陰であると感謝申し上げます。

昨年の出来事で良かったことを振り返りますと、まずは 11 月 1 日～3 日と横浜 Y C & A C での第 4 回ジャパンオープン国際大会が無事に終了できたことです。初めての関東地区開催で心配もありましたが、Y C & A C の皆様を中心とした関東支部の絶大なご尽力と、これまで 3 回の開催を経験してきた関西支部のノウハウとが融合して、成功に結び付くことが出来たと言えます。

次には 8 月 22～23 日 明石での男女ペアーズ、10 月 10～11 日 立川での男女シングルの日本選手権大会を頂点とする全国大会の開催を順調に完遂できたことです。この前段階の各地区の予選会を含めて合計約 120 人のボウラーが選手として参加しており、全国規模の大会開催が軌道に乗ってきたと言えます。

そして、この日本選手権大会の上位に入られた方を主体として編成した日本代表チームが 11 月 24 日～12 月 6 日 ニュージーランドのアジア太平洋大会で見事な成果を挙げて、アジア太平洋地区のローンボウルズ界に日本の躍進ぶりをあらためて注目させることになったことです。これには勿論オーストラリア在住会員の活躍があったことを強調せねばなりません、地域的に離れていてもお互いに日本人として日本の国際的ステイタスの高揚のために協調・協力していく姿勢にはゆるぎないものがあると言えます。

最後になりますが、各地区の各クラブにおいてローンボウルズの普及・発展のためにいろいろな形で体験会、講習会、オープン競技会などが盛んに企画・実行されてきていることです。いちいちのご紹介は紙面の都合で出来ませんが、関係者がそれぞれにご尽力いただいて日本のローンボウルズ界の底辺拡大に貢献していただいている事は、何よりの喜びであります。

さて新しい年を迎えての抱負であります、  
何といても、B J 加盟会員数の拡大（できれば現状会員数より倍増を！）を最優先課題として取り組んでいきたいと思えます。

上記のように行事面では順調に推移した昨年でしたが、B J 加盟会員数を見る限りでは、ここ 10 年間にわたって 300 名弱でずっと推移してきており、拡大のきざしが見られません。

中身の实態を見ると、関東での帝京、関西での甲南、高知、京都など若い人のクラブが新しく発展しつつあるものの、既存の古いクラブの会員の高齢化による会員数の減少が進みつつあり、全体として辛うじて均衡しているという危うい状態にあります。

これを何とかブレイクスルーしようということをおよび昨年12月20日のBJ理事会におい中・長期の重点課題として取り上げることを決定しました。

言いかえれば、外部から見れば300名弱の会員数による閉鎖的なコミュニティであるローンボウルズ日本(Bowls Japan)をもっと開放的で、発展的なコミュニティにしようではありませんか、ということおです。

いろいろと会員各位の建設的なご意見、創造的なアイデアをいただきながら進めて行きたいと思おいます。それでは、今年1年間をよろしくお願お申し上げます。

#### 一般情報など

##### (1) 2015年度 第3回BJ理事会 開催

日時：平成27年12月20日(日) 13時～17時半

場所：中京大学名古屋キャンパス5号館 8階 58A教室

出席者：理事11名、委任状提出者6名、陪席出席者2名

議事：

1号議案：第4回ジャパンオープン国際大会 開催結果の報告。

ならびにその評価と反省ならびに今後の予定について

2号議案：Bowls Japanの中・長期的課題とその取り組み方策の計画化。

3号議案：その他 情報交換

特に、2号議案においてBJの中・長期的課題として次の4項目が共通認識として取り上げられ、今回は自由な意見交換を主体として活発な議論が交わされました。

1. 会員数の拡大
2. 年間活動予算規模の拡大
3. 組織体制リーダー層の若返りの為の人材育成
4. IT技術を活用した広報活動の充実

1. についてはあらためて各クラブに対してアンケート調査を行うことが決定されました。

2. については、主として年会費会員数拡大のための活動財源にあてることを目的として、年会費を次のように値上げする案が採択され、本年4月16日(土)開催予定の定期総会で議決することが決定されました。

- ①クラブ登録年会費 10,000円/1クラブ⇒13,000円/1クラブ (3割アップ)
- ②正会員年会費 500円/人⇒600円/人 (2割アップ)
- ③賛助会員年会費 500円以上/人⇒600円以上/人 (2割アップ)

さらに詳細な内容は、各クラブ代表者に送付されている理事会議事録を参照してください。

(2) 2015 年度アジア太平洋大会 (11/24~12/6、ニュージーランドで開催) で素晴らしい好成績

BJブリテン 11 月号で前半戦の結果をお知らせしましたが、そのあとの後半戦の成績はあとのページで詳細記録を記載しています。会員からの投稿ページにも参加選手からの報告記事が掲載されていますのでご覧ください。

日本チームは、国内からの参加選手は南半球の特徴である大変に速いグリーン (ペース・オブ・グリーン 18~20 秒) とボウルが流されるほどの強風に不慣れなため必ずしも良い成績ではありませんでしたが、オーストラリア在住選手の活躍のおかげで、また Bowls Japan の歴史に新しいページを書き加えることができる素晴らしい好成績をおさめました。その要約をここに記します。

項目	内容	備考
国別総合順位	男子：参加 17 ヶ国中の第 6 位 女子：参加 16 ヶ国中の第 13 位	1 位から 5 位は、 男子：ニュージーランド <sup>o</sup> 、オーストラリア、マレーシア、 カナダ <sup>o</sup> 、香港 女子：オーストラリア、ニュージーランド <sup>o</sup> 、マレーシア、 フィリピン、ノースアイルランド <sup>o</sup>
上位入賞 メダル獲得	男子トリプルス <sup>o</sup> ：準優勝 (銀メダル) 佐藤寿治、江村健一、長谷部健太 (参考) 優勝：ニュージーランド <sup>o</sup> 準優勝：日本 第 3 位：オーストラリア、フィジー	(過去の上位入賞記録) 1. 2011 年度 World Junior Championship 男子シングルス 第 3 位 長谷部健太 2. 2011 年度アジア太平洋大会 女子フォアズ <sup>o</sup> 第 3 位 小野暖未、前林典子、 佐藤正子、江村裕子 3. 2011 年度世界選手権大会 男子トリプルス <sup>o</sup> 決勝トーナメントに 進出したが、準々決勝で敗退 佐藤寿治、江村健一、 長谷部健太
	男子シングルス： 第 3 位 (銅メダル) 長谷部健太 (参考) 優勝： Aron Sherrif(オーストラリア) 準優勝： Mike Kernaghan (ニュージーランド <sup>o</sup> ) 第 3 位：長谷部健太(日本) Hizlee Rais(マレーシア)	
2016 年度 世界選手権大会 (ニュージーランド <sup>o</sup> ) 出場権獲得	1. 男子シングルス：長谷部健太	4 年に 1 回の開催。 2012 年度までは、男子 4 種目と 女子 4 種目の合計 8 種目をすべて含 めて、国別に出場権が与えられた が、2016 年度からは個々の種目別 に出場権が与えられる方式に変更 になった。
	2. 男子トリプルス <sup>o</sup> ：佐藤寿治、江村健一、 長谷部健太	
	3. 男子フォアズ <sup>o</sup> ：宮崎宗久、坂本紘一、 佐藤寿治、江村健一	
	4. 女子フォアズ <sup>o</sup> ：野上京子、前林典子、 佐藤正子、江村裕子	

(3) 香港タイガーボウルズ大会 (3月) 出場者決定

BJブリテン9月号で募集していました第19回香港タイガーボウルズ大会(フォアーズ戦)出場者については12月15日の募集期限までに次の8名の応募があり、ちょうど定員を満たしましたのでそのまま決定されました。

男子チーム	女子チーム
合田純二(学園ワイズ)、野上哲男(タッチャーズ)	合田洋子(学園ワイズ)、野上京子(タッチャーズ)
坂本泰治(タッチャーズ)、柴森厚一郎(兵庫車椅子)	宮崎芳江(タッチャーズ)、井上千加子(タッチャーズ)

(4) World Cup 2016 出場者交替

BJブリテン10月号で報告していましたWorld Cup 2016大会(3月にオーストラリアのワリラにて)の女子出場選手が交替になりました。当初予定であった江村裕子選手(ノーストニークラブ)が家庭の事情で出場不可となったため、松岡 緑選手(ニュートラベルクラブ)に交替しました。松岡選手は2015年度女子シングルス日本選手権大会において江村選手(4位)より上位の3位でした。

(5) 新入会の紹介

1月1日付けで、KFBCに井上正昭さん(元 神戸タッチャーズ賛助会員)が賛助会員として入会されます。また同じくYC&ACにRichard Fachtmannさん、Makoto Honjoさんが賛助会員として入会されます。

**2015年12月の行事、活動などの結果**

(1) SVリーグ2015年度後期大会(第5,6節)

主催: 認定NPO法人ローンボウルズ日本 兵庫支部 SVリーグ実行委員会

場所: しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時: 12月2日(水)、19日(土) 12:30~16:00

結果: 12月19日終了時点での成績は次の通り。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位
チーム名	ALBC -A	学園 B	タッチャ ズC	神戸 グリーン	タッチャ ズA	兵庫車 椅子	タッチャ ズB	学園 A	ALBC -C	KFBC	中崎	ALBC -B
勝点	30	30	25	24	21	18	16	12	10	10	9	9
点差	+61	+51	+40	+24	+34	-21	-16	-68	-19	-24	-21	-41

(2) 中崎リーグの12月の結果

主催: ローンボウルズ中崎

日時: 12月7日、28日 いずれも月曜日 12:30~17:00

場所: 明石市中崎遊園地内ローンボウルズコート(天然芝、4リンク)

	12月7日	12月28日	10月~12月総合
1位	船引啓吾(グリーン)	藤川辰美(ALBC)	藤川辰美(ALBC)
2位	前林好信(LB中崎)	船引啓吾(グリーン)	船引啓吾(グリーン)
3位	樽井啓祐(BSC)	関 政美(ALBC)	前林典子(LB中崎)

(3) Aリーグカップ 2015 年後期大会の終了

主催：B J 兵庫支部 Aリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：12月6日(日)、20日(日) 12:45~16:00 をもって、後期の競技日程を終了した。

表彰式は新年1月10日(日)に行われる。表彰対象者は次の通り。

	A-1 リーグ	A-2 リーグ
1位	大杉正樹 (KFBC) 134点	野上哲男 (タッチャーズ) 93点
2位	山根英輝 (ローンボウルズ`中崎) 125.5点	児島久雄 (兵庫車椅子) 76点
3位	藤川辰美 (ALBC) 125点	野上京子 (タッチャーズ) 70点

参加日数1回あたり平均獲得得点の上位者 (ただし、参加日数が4回以上を対象)			
1位	松井康有 (タッチャーズ)	96.5点/8回	=12.06点/回
2位	日下隆夫 (学園ワイズ)	100.5点/9回	=11.17点/回
3位	佐藤充子 (ALBC)	120点/11回	=10.91点/回

(4) Mリーグ 2015 年後期大会 (第5,6節)

主催：B J 兵庫支部 Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：12月5日(土 12:30~16:00)、23日(水)は雨天中止

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、フォアーズ戦を行う。一人4球×8エンド戦を2ゲーム行う。

ポイントの計算方法は、{勝ちエンド数×1ポイント+ゲーム勝利のとき2ポイント(引き分けなら1ポイント)}

結果：12月23日終了時点での成績は次の通り。

	M-1 リーグ	M-2 リーグ
1位	吉田利男 (SC生涯スポーツ) 62点	船引啓吾 (神戸グリーン) 50点
2位	大杖 昇 (神戸グリーン) 61点	中山 章 (学園都市ワイズ) 49点
3位	梶原洋介 (SC生涯スポーツ) 60点	宮北 茂 (神戸ボウルズ) 48点

(5) 垂水健康公園合同練習会

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本兵庫支部 [担当委員：森、児島、旭]

日時：12月8日(火)9時~13時

場所：神戸市立垂水健康公園テニスコート

結果：12名が参加し、ペアーズ戦を2ゲーム行った。

(6) 2015 年度アジア・太平洋地域選手権大会 (ニュージーランド・クライストチャーチで開催)の後半戦の結果

男子のシングルス、フォアーズ、女子のペアーズ、トリプルズ種目の予選結果は次の通りであった。

種目および出場選手	成績	記事
(男子シングルス) 長谷部健太	6勝(香港、フィジー、オーストラリア、マカオ、ニウエ、チリ)、1敗(インド)で予選グループ8人中の2位で決勝トーナメントに進出	決勝トーナメントの1回戦(準々決勝)ではカナダ Ryan Bester を 21:19 で破り、準決勝でニュージーランド Mike Kernaghan に 13:21 で敗れて、3位(銅メダル)となった。 なお、優勝はオーストラリア Aron Sherrif であったが、彼には予選では勝っている。
(男子フォアーズ) 宮崎宗久、坂本紘一、佐藤寿治、江村健一、	2勝(シンガポール、インド)、1分け(中国)、4敗(ニュージーランド、マレーシア、クックアイランド、米国)で予選グループ8チーム中の5位で決勝には進出できず	世界選手権大会の出場権は得た。
(女子ペアーズ) 野上京子、合田洋子	1勝(ニウエ)、5敗(香港、カナダ、フィリピン、オーストラリア、クックアイランド)で予選グループ7チーム中の6位	日本とは桁違いの早いグリーンと強い風に悩まされ、対応できなかった。
(女子トリプルズ) 前林典子、佐藤正子、江村裕子	1勝(ブルネイ)、5敗(カナダ、オーストラリア、シンガポール、フィジー、米国)で予選グループ7チーム中の7位	選手3名中の2名が風邪を引き、体調不良で実力を発揮できなかった。

(7) 平成 27 年度日本レクリエーション協会加盟団体運営代表者会議に出席

主催：公益財団法人日本レクリエーション協会

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

日時：12月2日（水）13:00～19:30

出席者：山田哲夫理事（ヨコハマ・ローンボウルズ・クラブ）

議事：1）日レク小西理事長、スポーツ庁健康スポーツ課 井上課長あいさつ

2）平成 28 年度のスポーツ振興施策の説明（スポーツ庁健康スポーツ課）

3）平成 28 年度スポーツ振興くじ助成の説明（日本スポーツ振興センター）

4）スポーツ安全保険の説明(公益財団法人スポーツ安全協会)

5）平成 28 年度の日レク基本方針と重要施策の説明（日レク 小田原事務局長）

6）分科会および情報交換会

(8) 平成 27 年度「スポーツクラブ 21 ひょうご」全県スポーツ・サミットにてローンボウルズのデモンストレーションおよび体験会を開催

主催：兵庫県教育委員会、兵庫県体育協会

主管：「スポーツクラブ 21 ひょうご」全県連絡協議会

日時：平成 27 年 12 月 5 日（日） 10 時～15 時半

場所：芦屋大学 本館4階 国際会議場ほか

障害者スポーツ体験：13時から14時まで体育館にて実施、カーペットを玉津体育館から持ち込んで2リンクを設営した。

1. 森理事長がローンボウルズの紹介を口頭で実施（約15分）
2. 兵庫車椅子クラブ児島会長ほか5名がデモンストレーション・ゲームを実施（約15分）
3. 参加者（約100名以上）が順番に投球体験を実施（約30分）

県下の各市町のスポーツ推進委員や大学のスポーツ関係者などが参加しており、ローンボウルズの面白さは体感していただいたようである。持参した紹介パンフレット100部はあっという間に無くなった。

(9) 高知大学から香港ローンボウルズ連盟を訪問

ローンボウルズ高知UCの川本さん（高知大学人文科学部 准教授）が、2016年度に「ローンボウルズとその歴史というテーマによる海外スタディツアー」という学部学生用の新しい海外実習プログラムを実施する計画を立てておられます。

その準備として、12月16、17日の2日間にわたって同僚のダレン・リングレイ教授とともに香港を訪問し、香港ローンボウルズ連盟の会長 Vincent Cheung 氏、評議員 Johnny Tsang 氏らと下打合わせを行った結果、香港側の全面的協力も得られることが決まったとのこと。早ければ2016年2月頃にもプログラム開始をしたいということで、張り切っておられます。

(10) アンパイヤー（レベル1）資格認定および更新講習会（愛知・関西地区）開催

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本 技術・競技部

講師：森、山田、坂本（紘）、船引

日時：12月26日（土）9:00～17:00（座学）

27日（日）9:00～17:00（実習、座学および認定試験）

場所：神戸市しあわせの村 保養センターひよどり研修室1, 2（座学）

およびローンボウルズグリーン（実習）

実施結果：

	合格者	不合格者
更新対象者	11名	5名
新規取得対象者	4名	0名
合計	15名	5名

2016年1月以降の計画、予定

(1) SVリーグ2015年度後期大会(第7,8節)

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本 兵庫支部 SVリーグ実行委員会

リーダー：神戸タッチャーズ、会計：兵庫車椅子クラブ、記録：ALBC

場所：しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：1月6日（水）、16日（土）12:30～16:00

競技内容：ペアーズ戦を2ゲーム行う。一人4球×10エンドまたは75分時間制の併用

(2) Aリーグカップ2016年前期大会(第1,2節)

主催：BJ兵庫支部 Aリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：1月10日（日）、17日（日）12:45～16:00

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。参加費：一人200円。

チーム編成は当日の抽選にて決定。

(3) Mリーグ2015年後期大会(第7,8節)

主催：BJ兵庫支部 Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：1月17日（日）、31日（日）12:30～16:00

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、  
フォアーズ戦を行う。一人4球×8エンド戦を2ゲーム行う。

ポイントの計算方法は、{勝ちエンド数×1ポイント+ゲーム勝利のとき2ポイント（引き分けなら1ポイント）}

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。参加費：一人200円。

チーム編成は当日の抽選にて決定。

(4) 中崎リーグの1月の開催予定

主催：ローンボウルズ中崎

日時：1月11日(月)、18日(月)

いずれも 12:30～17:00（雨天の場合は次週に順延）

場所：明石市中崎遊園地内ローンボウルズコート（天然芝、4リンク）

募集人員：max.24名（当日自由参加）。組み合わせは、当日抽選により決定。

(5) 垂水健康公園合同練習会

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本兵庫支部

日時：1月12日（火）9時～13時

場所：神戸市立垂水健康公園テニスコート

内容：参加人数によりペアーズ戦またはトリプルズ戦にて3～4ゲームを行う。

チーム編成は、当日朝の抽選により決定する。

(6) 2015年度アジア地域選手権大会

主催：アジア地域ローンボウルズ連盟

主管：ブルネイ・ローンボウルズ協会

日時：平成28年1月21日（木）～2月3日（水）

場所：ブルネイ国立スポーツ競技場

参加国：中国、香港、マカオ、日本、フィリッピン、シンガポール、マレーシア、  
ブルネイ、タイ、インド、スリランカ、パキスタン

競技種目：男女別にそれぞれシングルス、ペアーズ、トリプルズ、フォアーズ

出場選手：マネージャー/コーチ 森 紘一（学園ワイズ）

	男子	女子
ペアーズ	依田成史（YC&AC） 斎藤紀治（YC&AC）	西條和子（ALBC） 松岡 緑（ニュートラベルベイ）
トリプルズ	船引啓吾（神戸グリーン） 安部 宏（神戸グリーン） 宮北 茂（神戸ボウルズ）	野上京子（神戸タッチャーズ） 森 弘子（学園ワイズ） 垣内紀子（ALBC）
シングルス	依田成史（YC&AC）	松岡 緑（ニュートラベルベイ）
フォアーズ	森 紘一、宮北 茂 船引啓吾、安部 宏	野上京子、森 弘子 西條和子、垣内紀子

（7）アンパイヤー（レベル1）資格認定および更新講習会（関東地区）の開催予定

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本 技術・競技部

日時：2月27日（土） 9:00～17:00（座学）

筆記用具およびルールブックを持参すること

28日（日）9:00～17:00（実習および座学）

ローンボウルズの服装で来ること

筆記用具およびルールブックを持参すること

場所：横浜市 YC&AC 集会室（座学）

およびローンボウルズグリーン（実習）

参加費：当日徴収 更新対象者は1,000円、新規取得対象者は2,000円

申込み：1月31日までにBJ事務局長 宮北へメールまたはFAXにて申込むこと

#### 会員からの投稿

#### アジア太平洋選手権（APC）を振り返って

オーストラリア在住会員 佐藤寿治

11月24日から12月6日まで、ニュージーランド（NZ）のクライストチャーチで開催された、APCに男子トリプルズとフォアーズで参加し前者では、初の決勝進出を果たし地元NZに挑みましたが力及ばず2位で終わりました。一方フォアーズは、中国チームを率いるジャッキー・ウォンの見事なリーダーシップに苦しめられましたが、一時はダブルスコア近く離されながら終盤に追い上げ、1点差で迎えた最終エンドで執念とも言える1ショットをもぎ取り、何とか引き分けに持ち込み胸を撫で下ろしました。この引き分けが値千金で、得失点差で中国を押さえてセクション5位を決め、来年の世界選手権（WC）への出場権を確保できました。リードとセカンドの務めをしっかり果たされた宮崎さんと坂本さんは、ペアーズでの息の合ったプレーに更に磨きを掛け、特にゲーム前半でのヘッドを構築する連携も素晴らしく、WCで再びプレーできるのを楽しみにしています。

ボウリングを始め、漸く国際大会に日の丸を背負っての出場が叶い、それから何とかメダルに届

くことを目指して来ました。4年前の APC そして3年前の WC と経験を積み、殊に WC では長谷部 健太君というエースの登場で、目標であったマレーシアの若きトリオに勝利し、風の強い困難な条件下イングランドとの息詰まる接戦を制し、最終アイルランド戦まで望みを繋ぐことができました。それから3年、メダルに届きましたが反省点も。

予選ラウンドは、鍵となると予測していた3戦目のアメリカ戦に勝って連勝、次に待ち構えるのが関門となるマレーシアそしてオーストラリア。何をやっても旨く行くという状況を目の当たりに見せられ、それぞれ17点及び21点で大敗を喫し一気に剣が峰に立たされることに。連敗を喫した相手のスキッパーに共通していたのが、特色のある配色で、回転に連れ激しい色彩の変化を見せつけ、色のフラッシング効果による幻覚症状で多数の人の目を背けさせる『サイケボウル』の使用です。『サイケボウル』とは筆者による命名で、ボウルの回転軸に対しほぼ直角に数センチの幅で黄、赤、白そして黒等の強烈な原色を配し、境界も適当に重複させ一層の視覚攪乱効果を高めています。一見するとふざけただけの『サイケボウル』ですが、大相撲の横綱が得意とする『猫だまし』と違い、単なる目眩ましで奇を銜う小物では無いようで、投球者が正視に堪え得るならばという条件付で、ジャックに向うボウルが描く軌跡を視覚化する、これまでのボウルに無かった大技が隠されています。

デリバリーされたボウルの軌跡は、初速度と方向の成分を持つベクトルで類似できるので、風とかグリーンの傾斜が一定であるなら初速度が、ジャックまでの距離を決める最も重要な要素となります。他にマット上で確認すべき主要要素を列記すると立位置、バイアスの向き、グリップ、腕を振り出す方向等。しかし、全ての要素と初速度には決定的な差異が存在し、初速度のみが一球毎に微妙に変化します。一球毎の変化量は、如何なる名コーチでも伝授出来ません。従って初速度は、各自が自己努力でしか身に付かないける固有の感性であり、ボウラーとしての真の実力です。初速度こそ距離感の本質であり、マット上で体が自然に反応するようになれば、ボウルは必ずジャックに絡みヘッドが小さく安定し、延いては勝利を引き寄せる確率がぐんと上がります。

最良の初速度に悩むボウラーに、初速度の良否を幻覚を逆手に一球ごとに判定して見せるというのが『サイケボウル』の謳い文句です。デリバリーされた『サイケボウル』は、重ね餅風に層を成す各色が混合してサイケボウルとしての軌跡を描き、やがて回転速度が落ち各色の層が個別に見える瞬間（ターニングポイント=TP）から、バイアスが大きく利いてジャックに向かい停止します。TPから基準とした色が何回見えたかで、TPから停止箇所までの距離も円周を単位として簡単に算出可能です。断るまでも無く、大きく変る模様が変化する瞬間を的確に捉え、重要な情報を得るのにも相応の鍛錬を必要としますが、淡色や殆ど均等にスペックルをちりばめた通常ボウルでは思いもよらない発想です。何とか目眩ましを克服し『サイケボウル』を追うと、確かに通常ボウルよりTPの見極めがずっと楽で、サイケ効果が充分一考に値すると感じました。ところが、決勝ラウンドで大敗した両チームとのリベンジが叶い、初速度の奥深さに再度思い至ることに。

剣が峰に追い込まれて迎えた予選ラウンドの第6戦は、初心に戻りヘッドを作り優位にゲームを進めたものの、難敵カナダのスキッパーの捨て身とも取れるオンショットが働き、共にスキッパーのボウルが趨勢を左右する競った展開となり、最終的には我エースの硬軟織り交ぜた技が勝り4点差で最終戦へ。ところが、後半に入り中国及びサモアを持ち前の破壊力で撃破したライバルアメリカが一気に盛り返し、決勝ラウンド進出の成否が最終戦の結果次第となりました。改めて、決勝ラウンドへの

進出の難しさを思い知りました。アメリカがマレーシアに勝ち、こちらがシンガポールに負ければそこで終わり。双方が勝つか引き分けた場合は、マージン勝負となりこちらが 11 ショットの先行。結果的には、共に最小点差での勝利で順位の移動が無く、3 年前の WC の結果を凌ぎ決勝ラウンドへの進出決定。

再び『サイケボウル』との決勝ラウンド 2 試合は、ヘッド崩されてもこちらのボウルが良い所でジャックを待ち受ける等、予選ラウンドの試合に比べ『付き』にも恵まれ、加えてエースの存在も頼もしくオーストラリア戦の最終エンドを除き、負ける気がしませんでした。

こちらが追い込まれて 2 点差で迎えたオーストラリア戦の最終エンドは、リードの投球が済みこちらが 1 アップ、続く先行の追いかける立場のセカンドは、当然ながらはオンショットでジャックを狙いヒット。それを受けた江村さんの 2 球目は、移動したジャックに向け申し分の無いベクトルで移動再び 1 アップ。『サイケボウル』の初球は、ショットボウルを的にしたドライビングを試みるも、的を外してディッチに落ちデッドボウル。結局 2 球目の『サイケボウル』も外れ、14-11 のスコアでまさかのリベンジが叶いました。

『サイケボウル』との新しい出会いで、ボウルの初速度と回転について目を開かれた大会でしたが、勝負から見えて来た一層の深みは双方の融合。それを『初期回転速度 (FMS)』と命名し、健太君のデリバリーフォームに当てはめるとイメージがはっきりします。彼は、長身でありながらしっかり重心を下げ、基本に近い腕の振りでボウルをリリースし、少し腕を高く上げるフォロースルーで仕上げです。一連の動作で FMS を与えられたボウルは、速い回転力で受ける風の影響も少なく、回転力が落ちるとバイアスでジャックへのコースに乗るか、乗らないにしても大きく外すことはありません。殊に速いグリーンでは、強い初速度による投げ過ぎと、その反動によるショートボウルが出やすく、大量失点を招くことが往々にして起こります。また、FMS ボウルの、バンク上等の不動点を目標にするので、ジャックがセンターラインから大きく移動しても、目標とする次の不動点に移行するのは容易で、間違いなく『サイケボウル』が敵わない優位性です。健太君に倣い、安定した FMS をボウルに付与する技術を習得したなら、来年の WC で金メダル獲得も現実になること間違いなし。

予選ラウンドからプレイオフそしてセミファイナルを終え、いよいよ憧れのファイナルの舞台へ。残念ながら、自己ベストといえるプレーができず悔いを残しました。力が出せなかった最大の理由は、初めての決勝進出に対する『上がり』で、メンタルトレーニングが全く出来ていなかった。テレビカメラに対する戸惑いも、初体験故の誇らしくも情けない限りでした。正面のカメラには問題が無かったものの、低いアングルから投球フォームを捉えるカメラは、投球中に視野の一部に入りプレッシャーになりました。至らない点、不慣れ等が相乗し負けましたが来年の WC は、若きエースを盛り立てセンターポールに日の丸を狙います。

## 2015 Asia Pacific Championships に参加して

神戸タッチャーズ 坂本紘一

11月20日クリスマス到着から日本選手団のホストクラブとしてお世話頂いた St Martins クラブの皆さんに感謝します。

空港出迎え、モーターへの案内、翌日練習の機会を提供していただいたうえ、夕方には Welcome

ミーティングの時間を持って頂きました。大会開催中は、度々会場（Burnside）に日本選手の応援に駆けつけてくれるなど親身になってサポート役を果たしていただき感謝に堪えません。次回も日本チームのサポーターを是非やりたいとの嬉しいお申し出も頂きました。

期間 出発：11月19日（木）～ 12月8日（帰国）

日本選手団 男子 佐藤寿治 江村健一 長谷部健太 宮崎宗久 坂本紘一

女子 江村裕子 佐藤正子 合田洋子 前林典子 野上京子

マネージャー 松岡 緑 コーチ 合田純二 野上哲男 計13名

競技日程 前半 男子：ペアーズ トリプルズ 女子：シングルス フォワーズ

後半 男子：シングルス フォワーズ 女子：ペアーズ トリプルズ

成績 最終ページに記載

## 明と暗

### ・ボウラーの高齢化は世界共通

日本も含め、今回の参加各国ともボウラーの高齢化は避けようのない事実として進行している。

おそらく参加選手中 小生が最高齢で、米国女子フォアーズのスキップを勤めていた女性とその次であろう。投球モーションも「よいこらしよ」という感じ。

青壮年層を揃えた選手団を構成できる国は戦績も良く、ゲームも活気に満ちている。

国家またはその国のスポーツ連合組織としてローンボウルズへの、支援・育成の差が選手層の厚さや、戦績の高さと比例して現れているといえる。

### ・無限の可能性

我が国LB界においてもハイピッチで高齢が進んでいるが、中には相当なスキル（国際大会で互角に戦える力量）を持つ青壮年層会員も居るけれども、彼らは2週間もの長期職場離脱が事実上困難な状況であると思われ止む無くリタイヤー年代の会員に回さざるを得ない状況にある。現役の彼らに国際大会参加保証可能な制度の確立を検討出来ないものだろうか。

長谷部健太君の実力・人気ともに極めて高く、日本の誇りだ。12歳ごろからLBを始めて12年のキャリアと聞く。Ausニューサウスウェールズ州の上位ランクの人気者。彼のこれからのボウルス人生は無限に広がることだろう。

### ・練習環境と価値観の差

会場となった Burnside と Papanui 両会場のグリーンの平坦性と速さ（ペースオブグリーン）は、日本のグリーンとは全く異なり、練習量やスキル以前の問題として大差がありすぎると言わざるを得ない。

大会の中日となる27日は休日。26日に試合が終わった後のグリーンの整備にとりかかるところを見た。グリーンにたっぷり水を撒いている。この水が浸み込まずグリーン全面に広がっていく、ま

るで浅く水を張った日本の水田のようだ。これほど平坦に36m四方が保たれているのである。さらに、グリーンを囲むバンクの縁（ふち：縦面のきわ 木または金属で作られている）には、6インチピッチ（約15.24cm）で穴が設けられセンターラインの位置が多様に変えられるようになっている。その穴にポールを差し込む簡単な仕組みだ。公式練習の時も1グリーン8リンクでおこなわれていた。グリーン平坦化維持の工夫の一端だ。グリーンキーパーの毎日のローラーかけも行われ維持管理にかかるコストが日本とは雲泥の差だ。道理で、どのリンクも、設計されたバイアスどおりの弧を描いてジャックに吸い付けられて行く訳だ。全く素晴らしグリーンである。（ペースオブグリーンは20秒前後 明石は約14～15秒 しあわせの村は約7～8秒）

このように国内グリーンと、オーストラリア地域のグリーンでは平坦性と速さに格段の差があり、練習環境が全く異なる。国内選手権などで優れた成績を挙げてもニュージーランドやオーストラリアのグリーンに適應出来るようになるには、相当な現地練習時間が必要と思われる。

- ・ 目指す国際大会を想定した事前練習の充実で成果に繋ぐ  
組織的なスキルアップの取り組みを定型化していくことがこれからの国際大会で戦果を残すために必要な当面の課題だ。具体的には対戦者を変えながら長いエンドのゲームを行う。少ない球数（例えば2球）で確実に寄せるドロウ精度を高める。など。数か月前から取り組む必要があるが、国内リンクはパブリックグリーンのため、制約がありなかなか難しい。
- ・ コンペティション指向とエンジョイ指向  
ボウラーは2つの分類に分かれる。前者の中でも国内上位を目指すボウラーが殆どで、国際大会を目指すには、経済的、時間的、家庭的諸制約があり、ごく限られたボウラーにならざるを得ない国内状況である。  
そして前出のパブリックグリーンで両者仲良く練習やゲームをこなしているのが実態だ。  
前者の内で国際級選手の育成や、当面の国際大会出場選手強化練習などのプログラムも年次計画に織り込むことが必要になるだろう。  
いずれにせよみんなの合意形成の中で現存施設の有効的使い分けを進めるほか妙薬はない。
- ・ ローンボウルズ愛好者の裾野拡大  
国内LB人口は、高齢による離脱のほうが新規参入愛好者を上回る状況が改善せず、愛好者拡大の取り組みは待ったなしといえ、切迫した課題となっている。  
一方では、国際的な広がりを目指しながら、他方では足元の愛好者増加の取り組みが待ったなしという2兎を追いつねなければならない我が国LB界の険しい道は当面続くのだろう。
- ・ おわりに  
ともあれ今回の選手団13名の活躍は、自力で次年度世界選手権に出場する権利を男女4種目で獲得できた、これは全8種目中50%に当たる快挙といえよう。  
長い大会期間中には、体調問題、チームワーク課題、事前の練習環境やスキルの問題、LBそのものに対する価値観の問題など多くの課題も明らかになった。  
選手の活躍を側面からサポートしてくださった松岡マネージャー、合田純二、野上哲男両コーチに

は心から感謝申し上げます。

・成績

種 目	予選グループ戦	G内 プレーオフ	決勝トーナメント	2016 世界選手 権出場権
男子シングルス 長谷部健太	2位	2位	3位	○
男子ペアーズ 宮崎 坂本	最下位 (7敗)			
男子トリプルス 佐藤 江村 長谷部	3位 (5勝2敗)	1位	2位	○
男子フォアーズ 宮崎 坂本 佐藤 江村	5位 (2勝4敗1分)			○
女子シングルス 合田洋子	最下位 (1勝5敗)			
女子ペアーズ 合田 野上	6位 (1勝5敗)			
女子トリプルス 前林 佐藤正 江村裕	最下位 (1勝5敗)			
女子フォアーズ 野上 前林 佐藤正 江村裕	4位 (3勝3敗)			○